



グリップヒーター 取り付けについて JJ1WS530G1/G2

適合車種：XSR900、MT-07

このたびは、本商品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
ご使用の前に、本書およびグリップヒーター本体の取扱説明書を必ずお読みいただき、
いつも手元に置いて、正しい取扱方法により永くご愛用くださるようお願い申し上げます。



※パッケージ、取扱説明書の注意事項や内容を無視してご使用し、重大な
事故や損害が発生した場合でも弊社は賠償等の責は一切負いかねます。

《XSR900への取付けについて》

①配線の接続について

ブレーキランプスイッチ（写真①）に付属の電源ハーネスを割り込ませるように接続します（写真②）。このとき、接続部分には配線テープを巻き付けておきます。また、付属のアース線を写真③のように取り付けます。このとき、グリップヒーターハーネスをそれぞれに接続して、左右グリップ、スイッチも仮接続してグリップヒーターの動作確認をしておきます。問題なく動作すれば、グリップヒーターはいったん取り外します。



②純正グリップの取り外し

左右それぞれの純正グリップを取り外します。純正グリップが付いていたところに付着しているボンドをペーパクリーナーなどきれいに取り除きます。

③スイッチ部の取り付け

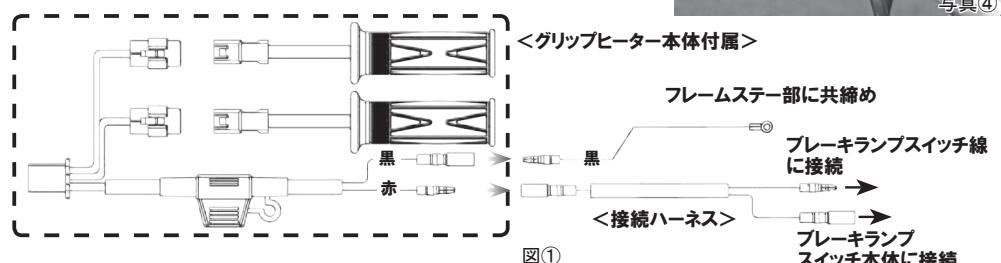
<HGの場合>

付属のステーをハンドルパイプに固定します。（写真④）
→このとき、操作の邪魔にならない位置にクランプしてください。



<SPの場合>

グリップヒーターを取り付ける前に、左側グリップ部に差し込んでおきます。



左右のグリップ共にグリップから出ている配線の位置を確認してから取り付けしてください。また、右側はスロットルを回したときに配線には絶対負荷がかからないようにしてください。グリップから配線が出ている部分は弱く、断線して破損してしまう恐れがあります。

④左右グリップの取り付け（参考例）

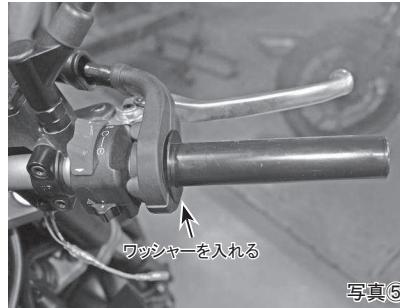
<SPの場合>

グリップヒーター本体の説明書を参考に、スペーサーを先に入れてからグリップを取り付けしてください。
特に右側は純正のプラスチックワッシャーと一緒にスペーサーを入れてから、グリップを取り付けてください。

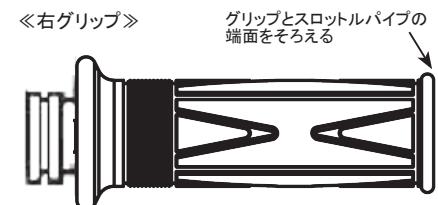
<以下、HG、SP共通>

グリップヒーターの配線位置を間違えないようにグリップヒーターを差し込みます。このとき、グリップが手で触って暖かいくらいまで仮組みで暖めておくと差し込みやすくなります。また右グリップは純正スロットルパイプからグリップラバーを取り外して後に純正と同様にプラスチックワッシャーを先に入れてからグリップヒーターを取り付けます。（写真⑤）

また、右グリップは図②のようにスロットルパイプとグリップの端面をそろえてください。



写真⑥



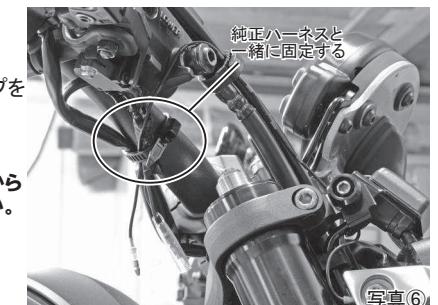
図②

●注意●

グリップヒーターを取り付ける際に、グリップヒーターのエンドをハンマーで叩いたり、グリップを強くねじったりしないでください。無理にグリップを押し込むと内部の熱線が断線してしまう恐れがありますので、絶対にしないでください。また、仮組みでグリップを暖める際に1分以上は暖めないでください。（特に右側）。内部が変形してしまい、熱線が出てきてしまう恐れがあります。

*右側グリップはスロットルを全開、全閉にしたときに、グリップから出ているケーブルに負荷がかからないように取り付けてください。

*必ず走行前にスロットルが正常に作動するかどうか手を離した状態でスロットルが確実に全閉まで戻ることを確認、点検を行ってください。



写真⑥

⑤配線のまとめ

接続した電源ハーネス、アース線は写真⑥のようにまとめて、グリップヒーター本体に接続したら、ギボシ部分には配線テープなどを巻きつけておきます。右グリップの取り付けが終わったら、右グリップの配線はスロットルケーブルに沿うように左グリップの配線は純正スイッチBOXの配線に沿うようにしてのグリップヒーター本体のカプラーに接続します。

また、配線の長さが余ってしまっている部分はフレームの間に邪魔にならない部分にタイラップなどでまとめて固定します。

→ハンドルを左右に動かしてハーネスに力がかかるっていないか、ハンドル操作、レバーの操作の邪魔にならないか、スロットル操作の邪魔にならないかどうか確認します。



写真⑦

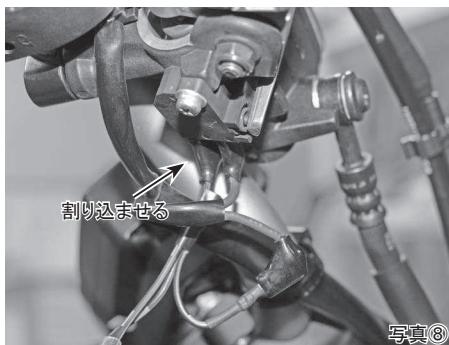
⑥取り付け完了

ステー部にメーターを固定して、取り外した部品を元に戻せば完成です。
動作確認をします。問題なく温まったら、カウルなど取り外した部品があれば、それを元に戻して取り付け完了です。

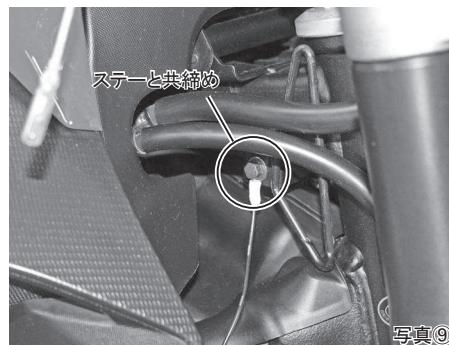
《MT-07への取付けについて》

①配線の接続について（図③）

付属している電源線の+側はFRブレーキランプスイッチ部（茶線）から（写真⑧）、アース線はフレームのステー部（写真⑨）から取って接続します。アース部は塗装をヤスリやサンドペーパーで剥がしてから取り付けします。このとき、左右グリップ、スイッチを仮接続してグリップヒーターの動作確認をしておきます。問題無く動作すれば、グリップヒーターはいったん外します。



写真⑧



写真⑨

②純正グリップの取り外し

左右それぞれの純正グリップを取り外します。純正グリップが付いていたところに付着しているボンドをパーツクリーナーなどできれいに取り除きます。

③スイッチ部の取り付け

<HGの場合>

付属のステーをハンドルパイプに固定します。（写真⑩）
→このとき、操作の邪魔にならない位置にクランプしてください。

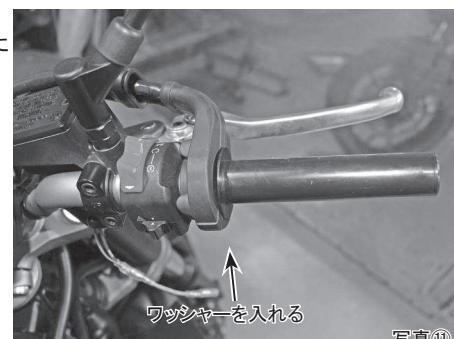


写真⑩

④左右グリップの取り付け（参考例）

<SPの場合>

グリップヒーター本体の説明書を参考に、スペーサーを先に入れてからグリップを取り付けください。特に右側は純正のプラスチックワッシャーと一緒にスペーサーを入れてから、グリップを取り付けてください。



写真⑪

<以下、HG、SP共通>

グリップヒーターの配線位置を間違えないようにグリップヒーターを差し込みます。このとき、グリップが手で触って暖かいくらいまで仮組みで暖めておくと差し込みやすくなります。また右グリップは純正スロットルパイプからグリップラバーを取り外して後に純正と同様にプラスチックワッシャーを先に入れてからグリップヒーターを取り付けます。（写真⑫）

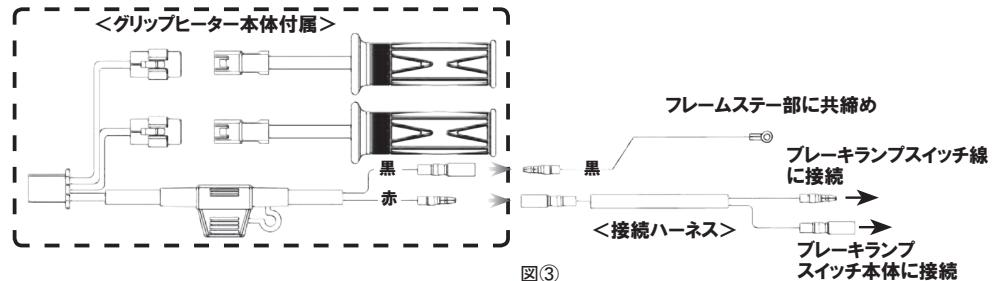
また、右グリップは図④のようにスロットルパイプとグリップの端面をそろえてください。

●注意●

グリップヒーターを取り付ける際に、グリップヒーターのエンドをハンマーで叩いたり、グリップを強くねじったりしないでください。無理にグリップを押し込むと内部の熱線が断線してしまう恐れがありますので、絶対にしないでください。また、仮組みでグリップを暖める際に1分以上は暖めないでください。（特に右側）。内部が変形してしまい、熱線が出てきてしまう恐れがあります。

※右側グリップはスロットルを全開、全閉にしたときに、グリップから出ているケーブルに負荷がかからないように取り付けてください。

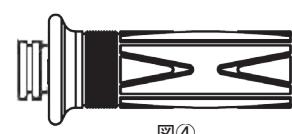
※必ず走行前にスロットルが正常に作動するかどうか手を離した状態でスロットルが確実に全閉まで戻ることを確認、点検を行ってください。



図③

『右グリップ』

グリップとスロットルパイプの端面をそろえる



図④

左右のグリップ共にグリップから出ている配線の位置を確認してから取り付けしてください。また、右側はスロットルを回したときに配線には絶対負荷がかからないようにしてください。グリップから配線が出ている部分は弱く、断線して破損してしまう恐れがあります。

▲ 注意

⑤配線のまとめ

左右グリップの取付けが終わったら、右グリップの配線はスロットルケーブルに沿うように 左グリップの配線は純正スイッチBOXの配線に沿うように通してのグリップヒーターハーネスのカプラーに接続します。

また、配線の長さが余ってしまっている部分はフレームの間の邪魔にならない部分にタイラップなどでまとめて固定します。

→ハンドルを左右に動かしてハーネスに力がかかるっていないか、ハンドル操作、レバーの操作の邪魔にならないか、スロットル操作の邪魔にならないかどうか確認します。

⑥取り付け完了

ステー部にメーターを固定して、取り外した部品を元に戻せば完成です。
動作確認をします。問題なく温まつたら、カウルを元に戻して取り付け完了です。

●構成部品●

- ・電源ハーネス・・・1本
- ・アース線・・・1本
- ・取扱説明書

・グリップヒーター（スイッチ）の使い方はグリップヒーターの取扱説明書を参照してください。

※デザイン及び仕様変更・価格等は予告なしに変更する場合がございます。

※弊社の取扱説明書等、十分ご確認の上ご使用ください。

※弊社商品以外の保証は一切お受けできませんのであらかじめご了承ください。

※本書やWEB上でのイラスト、写真等の記載内容が本商品と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

有限会社エンデュランス 〒350-0822 埼玉県川越市大字山田1726 TEL 049-222-7770 FAX 049-226-1625

www.endurance-parts.com/